

岩手県大槌町林野火災に係る学識経験者との現地調査結果とりまとめ①

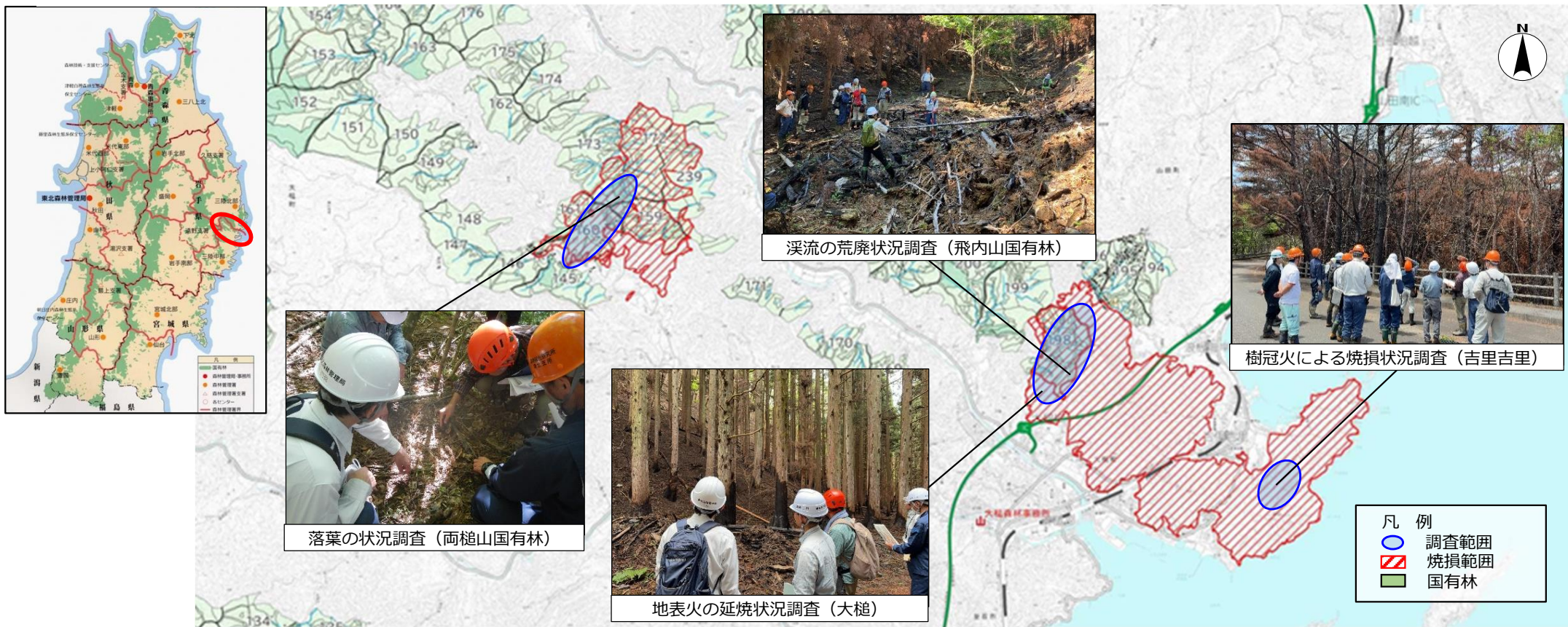


林野庁
東北森林管理局

調査概要

- 1 調査日時 令和8年6月17日（水）14時00分～19日（金）12時00分
- 2 調査場所 岩手県上閉伊郡大槌町 大槌 ^{とびないやま} 飛内山国有林198林班、小槌 ^{りょうづちやま} 両槌山国有林159,160林班、
※ 国有林のほか、赤浜地区、吉里吉里地区の一部で調査（位置図のとおり）
- 3 参加機関 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所（以下「森林総合研究所」）、
林野庁東北森林管理局、三陸中部森林管理署、岩手県、大槌町、釜石地方森林組合
- 4 学識経験者 森林総合研究所 森林防災研究領域 領域長 岡本 隆
森林防災研究領域 気象害・防災林研究室 主任研究員 玉井 幸治
東北支所 育林技術研究グループ グループ長 酒井 敦

位置図及び調査状況



1 気象状況（釜石観測所の気象データから）

- 令和8年1、2月の降水量は20mmと平年の115mmに比べ少雨であった。3、4月は230mmと平年（240mm）並の降水量であり、林野火災が覚知された前日の21日には降水量4mmが記録されている。
- 小槌地区の林野火災が覚知された4月22日13:53前後の気象状況は、最大瞬間風速15m/s以上の強風（最大瞬間風速21.3m/sを含む2回）を観測している。さらに乾燥注意報の基準である最小湿度40%を大きく下回る最小湿度9%を観測している。
- 林野火災が発生しやすい気象条件であったことや発生後も一定程度以上の風が続いたことにより、延焼拡大につながったと推測される。

2 学識経験者との現地調査で分かったこと

- スギ林は地表火による被害が中心だった。樹冠火は大面積で発生したものは少なく、主に新植地や若齢林で発生していた。
- 地表火により林床植生や落葉落枝等が燃えて消失した箇所が広く分布している。
- アカマツ林は尾根部に多く、葉が熱によって茶色に変色しているものが多く、部分的に樹冠火が発生していた。
- アカマツ林の林床は、火災の影響により既に茶色に変色したマツの葉が落ちて、地表を覆っている箇所が見られた。
- 広葉樹林は地表火による被害が中心だった。被害木の焼損度合は様々で、狭いエリア内でも斜面の向き等によって枯死していない箇所もあれば枯死している箇所もあり、尾根近くの広葉樹林は激しく焼損し枯死している箇所もあった。
- 被害を受けたコナラが枯死せず芽吹いている場合があった。
- 埋土種子由来の実生（発芽したばかりの植物）が多く発生していたが、高木性の実生は少なかった。
- 飛内山国有林ではシカの食痕が多数確認された。
- 地表火が林道で焼け止まりになっていた箇所が複数あった。
- 定期的な樹木伐採が行われている送電線下は草本類が激しく燃えていた痕跡が確認された。

3 学識経験者の主なコメント

- 展葉前の広葉樹林やスギ新植地は、林床に日射が入りやすく、落葉層は前日21日の降雨による湿った状態から、22日の林野火災覚知時には可燃状態となるまで十分に乾燥していたと考えられる。一方、樹冠が閉鎖したスギ林は、前日21日の降雨が遮蔽され、林床まで到達せずに落葉層が乾燥していた状態だった可能性がある。
- 樹冠火が発生した飛内山国有林のスギ造林地は樹高が低く急傾斜であったため、地表と枝葉の位置が近く地表火が樹冠に燃え移ったものと考えられる。
- 樹幹の焼損度合を確認した結果、地表火による被害を受けたスギ林の燃焼強度は、大船渡の林野火災に比べ全体的に低いように判断された。一方、アカマツ林の燃焼強度は、大船渡の林野火災に比べ全体的に高いように判断された。
- アカマツ林が多く分布している尾根部は、一般的に風が強いため、燃焼強度が高かった可能性がある。
- アカマツ林は、ツチクラゲ病が発生し、枯死が進む可能性がある。ツチクラゲの胞子の有無は、来春までに判断できる。
- 広葉樹林は、自然の推移に委ねた場合、焼損が軽い箇所では森林状態が維持、焼損が中程度の箇所ではコナラなど特定の樹種が生残、焼損が大きい箇所では実生から更新することとなる。
- 跡地造林の樹種の選択は、基本的に地域にある樹種を植えることが望ましい。広葉樹を植栽する場合は、現地の植生も考慮し、入手のしやすさや育苗のしやすさから、コナラ、クリ、ケヤキ、ヤマハンノキ、ヤシャブシが候補となる。
- シカの採食圧が高い場所では植生回復が遅れ、裸地状態が長期化する可能性があり重要なリスクとなる。
- 地表火が林道で焼け止まりになっていた箇所では、防火線（帯）の役割を果たしたと考えられる。
- 送電線下の火災跡地には多くのワラビが再生し、繁茂していたことから、火災発生時にあったと推測されるワラビの枯れ葉がかなり激しく燃焼したと考えられる。
- 地表火により林床植生や落葉落枝等の林床被覆が焼失した斜面では、降雨時に表面流が発生しやすくなり、表面侵食や土砂流出が生じるようになる。
- 燃焼強度の高かった斜面でも、樹木根系の土壌緊縛機能が直ちに消失することはないが、長期的には低下していくと考えられるため、表層崩壊のリスクが高まる可能性にも留意し、早期の再生を図る必要がある。